

岐阜県立大垣商業高等学校

学 校 長 佐野 浩
 学校住所 〒503-0002 大垣市開発町 4-300
 電 話 0584-81-4483

1 会議の名称	令和2年度 岐阜県立大垣商業高等学校 学校運営協議会	
2 会議の構成	出席委員	加藤 正博 大垣市開発町自治会 会長 近藤 伸子 大垣市和合地区 民生委員 田澤 美里 本校PTA 副会長 於保 亜希 本校PTA 会計監査 ○東 多恵子 株式会社 KOHO プラスワン 代表取締役 ◎山田 雄治 朝日大学経営学部 教授 山田 康雄 大垣西ロータリークラブ 正田 嗣文 大垣ビジネスサポートセンター センター長 ※◎会長、○副会長 (敬称略)
	学校側	佐野 浩 校長 炭竈 由彦 副校長 伊藤由美子 事務長 桑原 聡 教頭 林 孝美 教頭 井村 仁美 教務主任 (定時制) 有賀 竜也 生徒指導主事 川瀬 ちさ紀 進路指導主事 宮崎 貢 特別活動部長 河合 龍憲 専門教育推進部長
3 会議の開催	令和2年10月22日 (木)	
4 会議の概要	(1) 校長挨拶 (2) 出席者紹介 (会長、副会長含む) (3) 授業参観 (4) 地域と連携した教育活動等について説明 (生徒からの発表含む) (5) (4) について協議・意見交換	
5 委員からの御意見	会長	・地域の後押しがあると学校は取り組みやすくなる。子供たちのために何を後押しするのかについて御意見をいただきたい。
	意見1	・地域資源を活用した取組は素晴らしい。地域には幅広い年齢層の方々が住んでいるので、そのまとめをホームページだけで発信するのではなく、紙面でも地域に配付していただけると、さらに地域活性化につながると思う。 ・生徒が自ら文章を考え、編集等を行うことは良いことである。
	会長	・地域の方へ紙面で配付も検討していただけるとよい。 ・大垣市と連携し、大垣市のホームページとリンクさせていただくことも考えられると思う。

	意見 2	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点はよい。 ・企業等は、高校生の目線を取り入れたい、高校生から意見を聞きたいと考えている。SDGsの視点で高校生とコラボしたい企業は多くある。学校側と接点を持ちやすい環境を構築して、企業等とコミュニケーションを取ってほしい。 ・企業等の中には、どこに連絡や相談をしたらよいか、悩んでいるところもある。 ・本校が何を求めているのか、何を始めたいのか、何をやろうとしているのか等、明確に発信していくとよい。例えば、本校のホームページや広報紙上にコラボの窓口を設け、企業等に向けて「今回はこのテーマで取り組んでいるので、この点について御意見をいただきたい」とアピールする場があるとよい。 ・窓口が周知できれば、今後、企業等とコラボしやすく、地域と密接した関係が構築でき、同じ目的を持った企業等とタイアップできる。
	会長	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等からのエントリーのしやすさ、接点を作ることは重要である。
	意見 3	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望の生徒は、大垣市近郊の企業に就職する者が多いと思う。県外の大学等へ進学した者が、卒業後に地元へ帰り、地元で働きたい、生活したいと考えた時、その窓口が高校であるとよいのではないか。 ・高校時代に郷土愛を育むだけでなく、高校で学んだことを大学等でさらに深め、地元へ帰ってくる、そのような循環サイクルが構築できるとよい。 ・いろいろな情報機器に対応できる教育もお願いしたい。
	会長	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から地域の資源（水等）を本校の教育に取り入れ、郷土の良さを知り、地域資源の調査・分析等に取り組んでいる。本校は、地域に根差した商業高校であり、高校で取り組んだことが、将来の就職時に役立つことを期待している。
	意見 4	<ul style="list-style-type: none"> ・将来地元へ帰って、地元で働くということだけでなく、地域のために、母校のためにという帰属意識が持てる生徒を増やしてほしい。小中高での地域を題材にした取組は忘れない。地元に対する気持ちは大人になっても変わらない。 ・卒業してからも、どのように地域に貢献していくかが大切である。大垣市にはいろいろな団体（市民団体）があるので、各市民団体の活用やコラボを企画してはどうか。 ・商工会議所観光部会では、養老鉄道について取り組んでいる。一緒に取り組むことで、ネットワークが生まれ、人と人のつながりが生まれ、将来、そのつながりを生かすことができる。 ・市民団体の人たちとのコミュニケーションをしっかりと取った上で、生徒たちが卒業してから帰ってこられる場所（受け入れ場所）を作ってあげることも大切である。 ・高校時代に理念をもった外部団体との連携、ネットワークづくりは大切である。地元の外部団体の方の話聞くことで、地元で生活するということが見えてきて、このことが生きた活動となる。

	<p>会長</p> <p>意見5</p> <p>意見6</p> <p>意見7</p> <p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生が、将来地域で仕事に就いたり、起業したりする場合に、帰属意識を高めながら地域を盛り上げられる人材となり得るよう、学校から外部団体にアプローチしていく視点も大切である。 ・コミュニケーション能力の高い生徒を育成する学校の教育方針に共感している。 ・SDGsの視点で、地域とコラボしながら取り組んでいることは素晴らしい。 ・来年度、樽見鉄道との連携が予定されている。通勤通学時の交通手段以外では活用される機会が少ないが、各駅周辺は自然が豊富で、魅力がたくさんあるので調べて発信してほしい。 ・今住んでいる方に住み続けてもらうことも大切であるが、地域外から来た方に地域の良いところを発見してもらい、良い印象を持ってもらうことも大切である。 ・是非来年度の鉄道等との連携をホームページ等で情報発信してほしい。来年度の取組に期待している。 ・一つの商品を企画して販売する学習は大切なことである。本当に売れるのか、原価はいくらにするのか、誰に売するのか等を考えることは、とてもエネルギーがいる。 ・売上の回収方法を検討してはどうか。 ・地域資源である湧き水の取組は素晴らしい。湧き水を訪れるのは、年配の方が多い。ホームページ等でも、駐車場を明記してほしい。 ・ケーブルテレビや市役所等と連携してはどうか。マスコミとも連携し、学校の取組を広めてほしい。 ・SDGsについて勉強することはよいことである。 ・地域のイベントの中で、商品企画から販売までの取組を情報発信し、地域の方に知ってもらうことが大切である。 ・地域の方とコミュニケーションを取り、取組に広がりを持てるとよい。 ・大垣商業高校の初代学校運営協議会委員である皆さまからいただいた御意見は、社会に根ざした視点で、学校に対して良いアドバイスになっている。本日、新たなスタートが切れたのは、委員の皆様のお陰である。 <p>次回は1月に開催を予定している。</p>
<p>6 会議のまとめ</p>	<p>今年度より立ち上げた本校の学校運営協議会は第1回が書面開催となったため、今回初めて委員の皆さまにお集まりいただき、熟議の場を持つことができた。地域資源を活用しながら、SDGsの視点で学びを深めようとしている本校の教育について、様々なお立場から意見をいただくことができた。今後の学校運営やふるさと教育推進の参考とさせていただきたい。</p>	